

返し合ひをうのあけまつ。二陣の牧村半之助、長井範彈も入替る。織田方  
よりも紫田権六、木下小良も進んず。牧村長井こそとて、磨鬼紫田  
ごさんをまと。養地が近進すと、勝家をどうに慢めづ。只一山岸と突起り、うぶ。  
あらかじ朝闇の軍勢く。惣軍を引き起さる。稲葉安房民家の勢。右より  
登懸紫田が横倉小安墓。遠間小牧村長井の勢。一町ぞうむれに退く。  
秀吉三人龜が出るを見て、麿毛や御櫻を退せた。信長は小見  
小軍を遣し玉ふ。こもふと勝家も、二人龜が送らまし。信長は小見  
せつけ。今ドリ御櫻へ退返すと、二人龜も程よく退て。宇途うる退揚て。今日  
大將信長と殿徳しき愁感さよと、誠にやう小罵る。腹心の將佑ともりひ  
つ。秋篠の運びを知らまくる。然べ信長の軍と纏わ御櫻城小入る。諸  
軍勢を休息させ。本多が今度の擡。援群もと称義す。又い渡小川節を近  
ぞゑきり。

二人衆義木下謀故龍興属信長出馬

仁久丸則木下ともと責。又仁原是一辯あり。龍興日核媛酒か能ア。國人  
百姓の苦患を思ひそぞ。我身の榮耀を事とす。國政を忘果るといひども。諫  
言輩も更ある。今ハ義濃武士もありす。木下と信と通じ好ひ結んで懇示  
諫合ゆふうじしき。今こそ宣々まと諫言辭。謀計を盡す。二人龜へ  
密使を遣し。かがくこと諫合す。二人龜へその意を諺覺す。秋篠宮の  
諸事を含みし諫諭と云ふ。近來木下といひ者。御櫻小博を  
鑿ね。邊列侍士と行櫻らふと。跡うちじと諫所。もとがため小當城も被